

平成30年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 ■■
千葉県立■■■■高等学校 ■■制の課程 ■■科

1 期待する生徒像

【注】実施要項に掲載されたものと同じものを記載する。

(例1)

次のいずれかに該当する生徒

ア ……

イ ……

(例2)

次の全てを満たす生徒

ア ……

イ ……

2 選抜資料

【注】選抜のために用いる資料を具体的に示すこと。次の(1)～(9)の選抜資料について、該当しないものは削除し、番号は詰める。

なお、「評価項目・評価基準」は次の3に記載する。

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	受検者5名・評価者2名の集団面接 検査時間：1グループ15分
(4) 自己表現	次のア、イのいずれかを、出願時に志願者が選択 ア 口頭による自己表現 日本語による自己アピール 実施形態：個人で発表 検査時間：3分 イ 実技による自己表現 実施形態：個人で発表（ただし、団体種目は、複数人数で実施） 次の部活動実技のうち1つを選択 野球（男）・ソフトボール（女）・バレーボール（男女）・ 陸上（男女）・バスケットボール（男女）・剣道（男女）・ 柔道（男女）・吹奏楽（男女）・美術（男女）・合唱（男女） 検査時間：20分
(5) 作文	字数：500字以上600字以内 検査時間：50分
(6) 小論文	字数：400字以上600字以内 検査時間：50分
(7) 適性検査	志願する学科の学習に必要な適性をみる検査 検査時間：50分
(8) 学校独自問題による検査	3教科（国語・数学・英語の各教科30分）の基礎問題
(9) 志願理由書	志願者の直筆による「志願の理由」及び「自己アピール」

3 評価項目及び評価基準

【注】各選抜資料の評価項目及び評価基準を具体的に示すこと。次の(1)～(9)の選抜資料について、該当しないものは削除し、番号は詰める。原則として、選抜資料は全て得点（数値）化し、各項目について満点を必ず示すこと。

なお、(9)の「志願理由書」については、必ずしも得点（数値）化する必要はない。

また、(2)調査書の「ア 教科の学習の記録」については満点表記せず、「オ 総合所見」は「加点する」ではなく「参考とする」とする。

(1) 学力検査〔500点満点〕

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	20点未満の教科がある場合は、審議の対象とする。

記載例・前期

(2) 調査書 アの数値に、イ及びエについて加点（上限65点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3か年皆勤である場合は加点する。 各学年において欠席が10日以上ある場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○が一つもない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動、その他の活動で特に積極的に取り組んだと認められる記述については加点する。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 面接〔40点満点〕

2名の評価者が、次の4つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

aを5点、bを3点、cを1点とし、2名の評価者の評価（各20点満点）を合計し、得点化する。評価cが3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望の動機	志望の動機が明確である。
イ 高校生活への意欲	高校生活に対する目標・意識が明確である。 高校生活（学習・部活動等）に意欲的に取り組もうとしている。
ウ 質問に対する応答	質問内容を的確に理解し、分かりやすく適切に回答することができる。 中学校時代に頑張ったこと等について、明確に回答することができる。 将来の進路希望等について、具体的に回答することができる。
エ 身だしなみ・態度	基本的な面接作法が身に付いている。 服装・頭髪等身だしなみが整えられている。

(4) 自己表現〔60点満点〕【注】当日行う実技等の内容は、事前に示さない。

次のア、イについて、それぞれ2名の評価者が、3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

aを10点、bを6点、cを2点とし、2名の評価者の評価（各30点満点）を合計し、得点化する。評価cが3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

ア 口頭による自己表現（日本語による自己アピール）

評価項目	評価基準
(ア) 意欲・態度	発表に積極的・意欲的に取り組んでいる。 発表における態度が適切である。
(イ) テーマ・内容	発表テーマの設定が適切である。 発表内容が整理されており、まとまっている。 発表内容が自らの体験等に基づいており、説得力がある。
(ウ) スピーチの技能	発表におけるスピーチの基礎的スキルを身に付けている。 表現力豊かに、分かりやすく発表を行うことができる。

イ 実技による自己表現（部活動実技）

評価項目	評価基準
(ア) 意欲・態度	当該種目に積極的・意欲的に取り組んでいる。
(イ) 基礎的スキル	当該種目における基礎的スキルを身に付けている。
(ウ) 専門的スキル	当該種目における専門的スキルを身に付けている。

記載例・前期**(5) 作文〔100点満点〕 【注】 作文のテーマ等は、事前に示さない。**

2名の評価者が、次の2つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

aを25点、bを10点、c（問題がある）を5点とし、2名の評価者の評価（各50点満点）を合計し、得点化する。評価cが2つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 字数・全体構成	指定された字数に対して過不足がない。 全体としてのまとまりがある。
イ 内容・文章表現	与えられたテーマに対して内容が適切である。 誤字や脱字がない。文法が正しく用いられている。

(6) 小論文〔100点満点〕 【注】 小論文のテーマ等は、事前に示さない。

2名の評価者が、次の2つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

aを25点、bを10点、c（問題がある）を5点とし、2名の評価者の評価（各50点満点）を合計し、得点化する。評価cが2つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 字数・全体構成	指定された字数に対して過不足がない。 全体としてのまとまりがある。
イ 内容・文章表現	与えられたテーマに対して内容が適切である。 誤字や脱字がない。文法が正しく用いられている。

(7) 適性検査〔60点満点〕 【注】 課題等の内容は、事前に示さない。

2名の評価者が、次の3つの評価項目ごとに、それぞれの評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

aを10点、bを6点、cを2点とし、2名の評価者の評価（各30点満点）を合計し、得点化する。評価cが3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 意欲・態度	課題の製作に積極的・意欲的に取り組んでいる。
イ 手順・方法	課題の製作の手順や方法を正しく行うことができる。
ウ 課題の完成度	課題が正確に製作されており、完成度が高い。

(8) 学校独自問題による検査〔150点満点〕

評価項目	評価基準
3教科の得点合計	3教科（各教科50点満点）の合計150点満点で評価する。

(9) 志願理由書 【注】 必ずしも得点（数値）化する必要はない。

評価項目	評価基準
ア 志願理由	本校を志願する理由を確認し、総合的に判定する際の参考とする。
イ 自己アピール	特に優れた内容等を確認し、総合的に判定する際の参考とする。

記載例・前期

4 選抜方法

(1) 選抜の方法 【注】 順位付けの方法を明確に記載する。

また、総得点の満点の内訳を示した表を必ず記載する。

「学力検査の成績」，「調査書の得点」，「第2日の検査（面接・自己表現）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ，各選抜資料の評価等について慎重に審議しながら，予定人員までを入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳>

学力検査 の成績	調査書の得点		第2日の検査の得点		総得点
	評定（算式1）	加点	面接	自己表現	
500点	(135+ α -m)点	65点	40点	60点	(800+ α -m)点

（算式1） α ：県が定める評定合計の標準値95

m ：当該志願者の在籍する中学校の第3学年（義務教育学校にあっては，後期課程の第3学年）の評定の全学年の合計値の平均値

(2) その他 【注】 自己申告書は，得点(数値)化しない。

また，隣接県協定については，該当学区内の学校のみ記載する。

ア 自己申告書が提出された場合には，選抜資料に加える。ただし，提出されたことにより，不利益な取扱いはしない。

イ 入学許可候補者に内定した者のうち，隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による内定者数が，細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

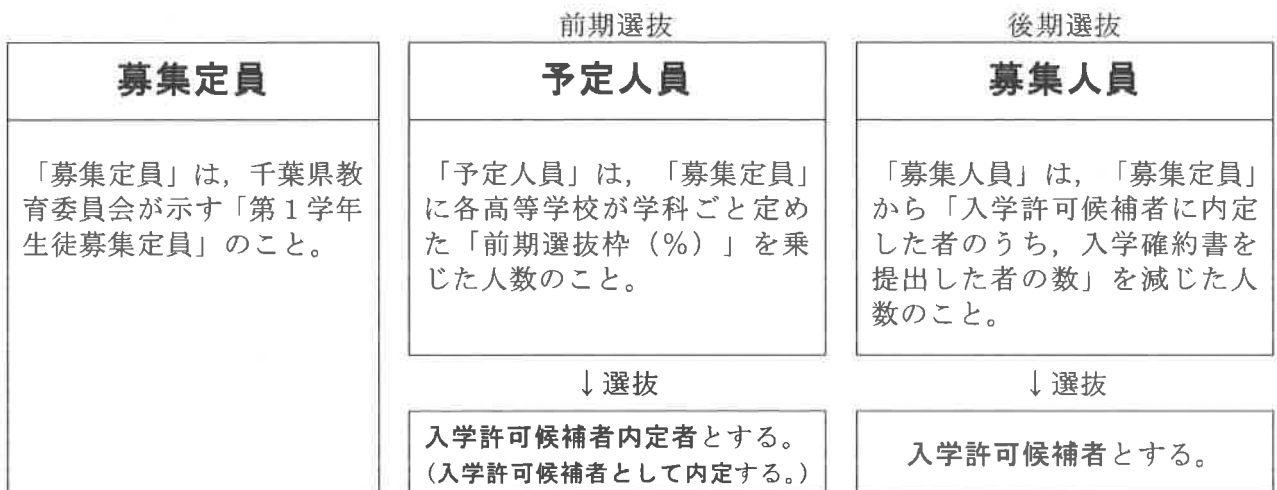
5 その他 【注】 第2日の検査で「面接」を実施する学校は，過年度卒業者に対して，二重に「面接」を行うのではなく「面談」とする。

特に記載する内容がない場合には，この項目を削除する。

過年度卒業者については，第2日の検査終了後，別途個人面談を行う。

【用語等の注意】

選抜・評価方法の作成に当たっては，以下の用語に注意すること。



記載例・後期

*前期選抜等で入学許可候補者に内定した者のうち入学確約書を提出した者の数が、募集定員を満たした学科については、後期選抜を実施しません。

平成30年度 後期選抜の選抜・評価方法

学校番号 ■■

千葉県立■■■■高等学校 ■■制の課程 ■■科

1 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	受検者5名・評価者2名の集団面接 検査時間：1グループ15分

2 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。
個々の教科の得点	20点未満の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	各学年において欠席が30日以上ある場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○が一つもない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 面接

2名の評価者が、次の4つの評価項目について、それぞれの評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。評価cが3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望の動機	志望の動機が明確である。
イ 高校生活への意欲	高校生活に対する目標・意識が明確である。 高校生活（学習・部活動等）に意欲的に取り組もうとしている。
ウ 質問に対する応答	質問内容を的確に理解し、分かりやすく適切に回答することができる。 中学校時代に頑張ったこと等について、明確に回答することができる。 将来の進路希望等について、具体的に回答することができる。
エ 身だしなみ・態度	基本的な面接作法が身に付いている。 服装・頭髪等身だしなみが整えられている。

3 選抜方法

(1) 選抜の方法 【注】 後期選抜については、次の記載例のとおりとする。

平成30年度千葉県公立高等学校入学者選抜実施要項に従い判定する。

(2) その他 【注】 隣接県協定については、該当学区内の学校のみ記載する。

ア 自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。

イ 入学許可候補者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による候補者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

4 その他 【注】 面接等各高等学校が必要に応じて実施する検査で「面接」を実施する学校は、過年度卒業者に対して、二重に「面接」を行うのではなく「面談」とする。

特に記載する内容がない場合には、この項目を削除する。

過年度卒業者については、検査終了後、別途個人面談を行う。